

柏市低炭素まちづくり計画の概要(平成27年8月策定)

- 柏駅周辺・柏の葉キャンパス駅周辺の都市拠点と、柏たなか駅周辺・豊四季台団地周辺・沼南支所周辺の生活・地域拠点の5拠点の機能強化を図りながら、各拠点を結ぶネットワークの強化を図り、都市機能や居住機能の集積を推進することで、集約型の都市構造へと転換を目指すとともに、エネルギー、みどり分野の施策に取り組むことで総合的な低炭素まちづくりを推進する。
- 「都市機能の省エネルギー化」、「移動支援とネットワークの充実」、「快適で魅力的な屋外空間の創出」の3つの基本方針に基づき、『都市構造分野』、『エネルギー分野』、『交通分野』、『みどり分野』の4分野において様々な取り組みを行う計画とする。

■低炭素まちづくりの将来像

“屋外で楽しく過ごせるまちかしわ”

■計画の目標

CO₂ 排出量は平成22年を基準年とし、都市づくりにおける削減目標(BAU比)を示す。

低炭素まちづくりの計画目標 都市計画部門目標

平成32年: 33.7万t-CO₂の削減 (20.4万t-CO₂)

平成42年: 69.5万t-CO₂の削減 (34.9万t-CO₂)

■都市計画部門の対象範囲

■ 柏市における温室効果ガス排出割合(H23) ※第二種市域(緑地を除く)

■ 低炭素まちづくり計画におけるCO₂削減目標割合(H42目標)

■ 都市計画部門におけるCO₂削減目標割合(H42目標)

■計画区域及び集約区域

計画区域：市街化区域全域(5,453ha)

集約区域：以下の5区域

- ・ 柏たなか駅周辺区域
- ・ 柏の葉キャンパス駅周辺区域
- ・ 豊四季台団地区域
- ・ 柏駅周辺区域
- ・ 沼南支所周辺区域

■基本方針

基本方針1 拠点の省エネルギー化(都市構造・エネルギー分野)

◎都市構造を転換するとともに、面的な再生可能エネルギーシステムの導入や建築物の省エネルギー化を促進することで、拠点全体の省エネルギー化を図る。

- ◇都市機能の集約化
- ◇公共交通軸の整備充実
- ◇省エネルギー建築物等への更新(※1)
- ◇エネルギーの面的利用
- ◇再生可能・未利用エネルギーの活用(※2)

基本方針2 移動支援とネットワークの充実(交通分野)

◎拠点への容易な移動を支援し、自家用車から公共交通機関等への利用交通手段の転換を促進や道路ネットワークの充実により交通流動の円滑化や旅行速度の向上を図り、エネルギー消費を減少させ、CO₂排出量を削減を図る。

- ◇交通結節点の利便性向上
- ◇鉄道利便性の向上
- ◇バス交通等の利便性向上
- ◇徒歩・自転車の利用促進
- ◇自動車交通の低炭素化

基本方針3 快適で魅力的な屋外環境の創出(みどり分野)

◎緑の環境改善効果によるヒートアイランド現象の緩和や、魅力的な屋外環境の創出による外出促進効果により、CO₂削減を図る。

- ◇屋外の快適性向上によるエネルギー消費の削減(※3)
- ◇既存のみどりの保全・再生、新たな緑の創出
- ◇水とみどりのネットワーク化
- ◇風の道の確保
- ◇地表面被覆の改善

(※1) 省エネルギー建築物のイメージ

●家のイメージ

●ビルのイメージ

(※2) 再生可能・未利用エネルギーの例

◎低炭素まちづくりのイメージ

- エネルギー削減を踏まえた面的な緑のネットワーク形成
- 交通結節点となる鉄道駅の利便性向上
- 都市開発事業を契機とした面的なエネルギー対策の導入
- 日常生活圏における利便性の向上と魅力的(快適)な屋外空間の創出
- 身近なみどりを増やすことによる緑会の創出、微気候の改善
- 集約型都市構造の実現に向けた市街地更新の誘導とそれに合わせた対策の導入
- 個別建築物での省エネルギー化の導入
- 鉄道駅を中心とした都市機能の集約による市街地のネットワーク化
- 自転車・バス交通の充実による歩いて暮らせる街の創出
- (※3) 屋外の快適性向上のイメージ